

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

タバココナジラミのウリ類退緑黄化ウイルス保毒状況と防除対策（技術情報第11号）  
について（送付）

タバココナジラミのウリ類退緑黄化ウイルス（以下、CCYVとする）保毒状況とウリ科野菜の退緑黄化病に対する防除対策について取りまとめましたので、業務に御活用下さい。

### 記

タバココナジラミのCCYV保毒虫率は平年並です。タバココナジラミの発生量が増加すると退緑黄化病の被害の拡大が懸念されるため、防除対策を徹底しましょう。

ウリ科野菜栽培主要3地域（熊本、鹿本、菊池）で、ウリ科野菜の退緑黄化病の発生リスクを判断するため、8月上旬～9月上旬のタバココナジラミの誘殺数およびCCYVの保毒虫率を調査した。

#### 1 調査結果

- （1）黄色粘着板（10×10cm）に誘殺されたタバココナジラミは、1.0頭/日/枚（平年2.1頭/日/枚）で、平年に比べて少なかった（図1）。
- （2）黄色粘着板に誘殺されたタバココナジラミのCCYV保毒虫率は30.3%（平年値26.6%）で、平年並であった（図2）。
- （3）退緑黄化病の発生リスクの指標となる保毒虫数は0.3頭/日/枚（平年0.7頭/日/枚）で、平年より少なかった（図3、表1）。
- （4）福岡管区气象台が9月12日に発表した九州北部地方1か月予報によると、気温は平年より高く推移すると予想されており、タバココナジラミの活動に好適な条件が続くと考えられる。

#### 2 防除対策

タバココナジラミのCCYV保毒虫率は平年並であるが、今後タバココナジラミの活動に好適な条件が続きハウス内へのタバココナジラミの飛び込み頻度が高まることで、退緑黄化病の感染機会が増加することが懸念されるため、以下の対策を徹底する。

#### 栽培前のほ場

- （1）これから定植するほ場では、タバココナジラミを栽培ほ場に「入れない」対策を徹底する。施設のサイド開口部に目合い0.4mm防虫ネット、谷換気部に目合い1mm以下の防虫ネットを被覆する。すでに被覆しているハウスについては、被覆ビニルや防虫ネットに破損や隙間が無い点検し、必要に応じて補修する。

- (2) 定植2～3日前に、「育苗期後半」に登録のある薬剤を処理する。育苗期後半に薬剤処理ができていない場合には、定植時に登録のある薬剤を必ず処理する。また、定植前処理剤の効果が低下する定植20～30日後に成虫に効果の高い薬剤を散布する。
- (3) 育苗ハウスから苗を運ぶ際には、移動中にタバココナジラミが寄生しないよう、運搬車等の荷台を防虫ネットや幌等で覆う。

#### 栽培中のほ場

- (1) タバココナジラミを施設内で「増やさない」対策を徹底する。現在栽培中のほ場では、栽培終了まで、タバココナジラミの防除を継続して行う。
- (2) タバココナジラミを施設外に「出さない」対策を徹底する。栽培終了後は直ちに密閉処理を行い、ほ場内のタバココナジラミを死滅させる。露地栽培などの密閉できないほ場では、成虫に効果の高い薬剤で防除したうえで植物残さを早急に片付ける。

#### 共 通

- (1) 施設内の発病株や周辺の野良生えは、重要な伝染源となるので除去する。
- (2) ウリ科野菜の周年栽培地帯におけるメロン退緑黄化病発生リスクは、5月から12月まで高い水準で推移する([農業研究成果情報 No. 597\(平成 25 年 5 月\)ウリ類周年栽培地帯でのメロン退緑黄化病発生リスクの季節変動](#))ので、今後も防除を徹底する。

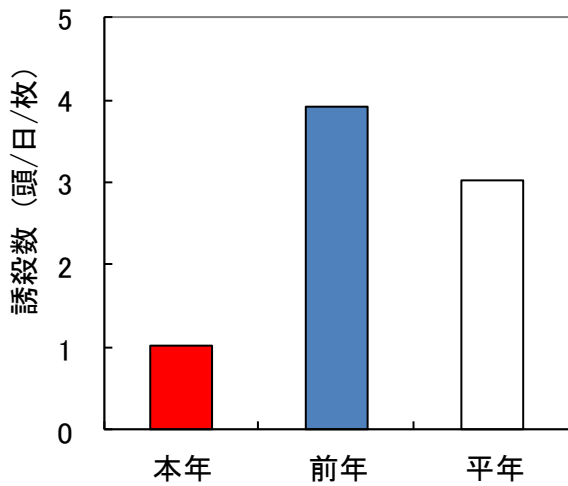


図1 ウリ科野菜栽培地帯に設置した黄色粘着板によるタバココナジラミ成虫誘殺数

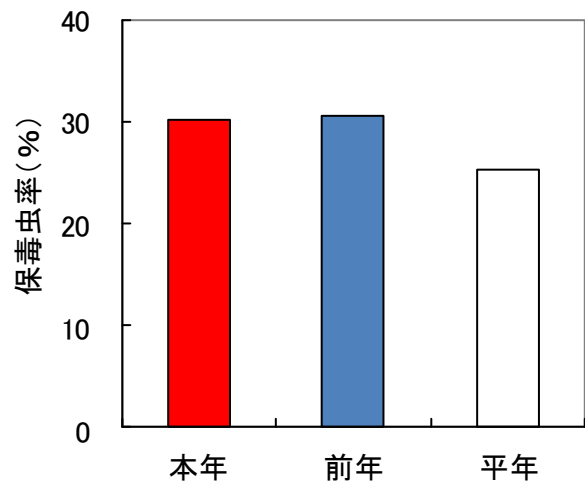


図2 粘着板に誘殺されたタバココナジラミ成虫のCCYV保毒虫率

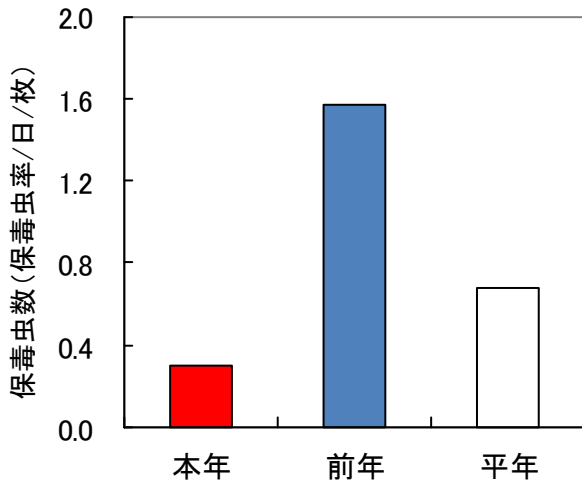


図3 ウリ科野菜栽培地帯のタバココナジラミ成虫の保毒虫数

表1 各調査年の保毒虫数

調査年	H26	H27	H28	H29	H30	R1	平年 (H26~30年)
保毒虫数	0.2	0.4	0.4	0.8	1.6	0.3	<b>0.7</b>

※平年値はH26~H30の平均

熊本県農業研究センター 生産環境研究所  
 病害虫研究室 予察指導係 (病害虫防除所)  
 担当：中村、坂本 TEL：096-248-6490